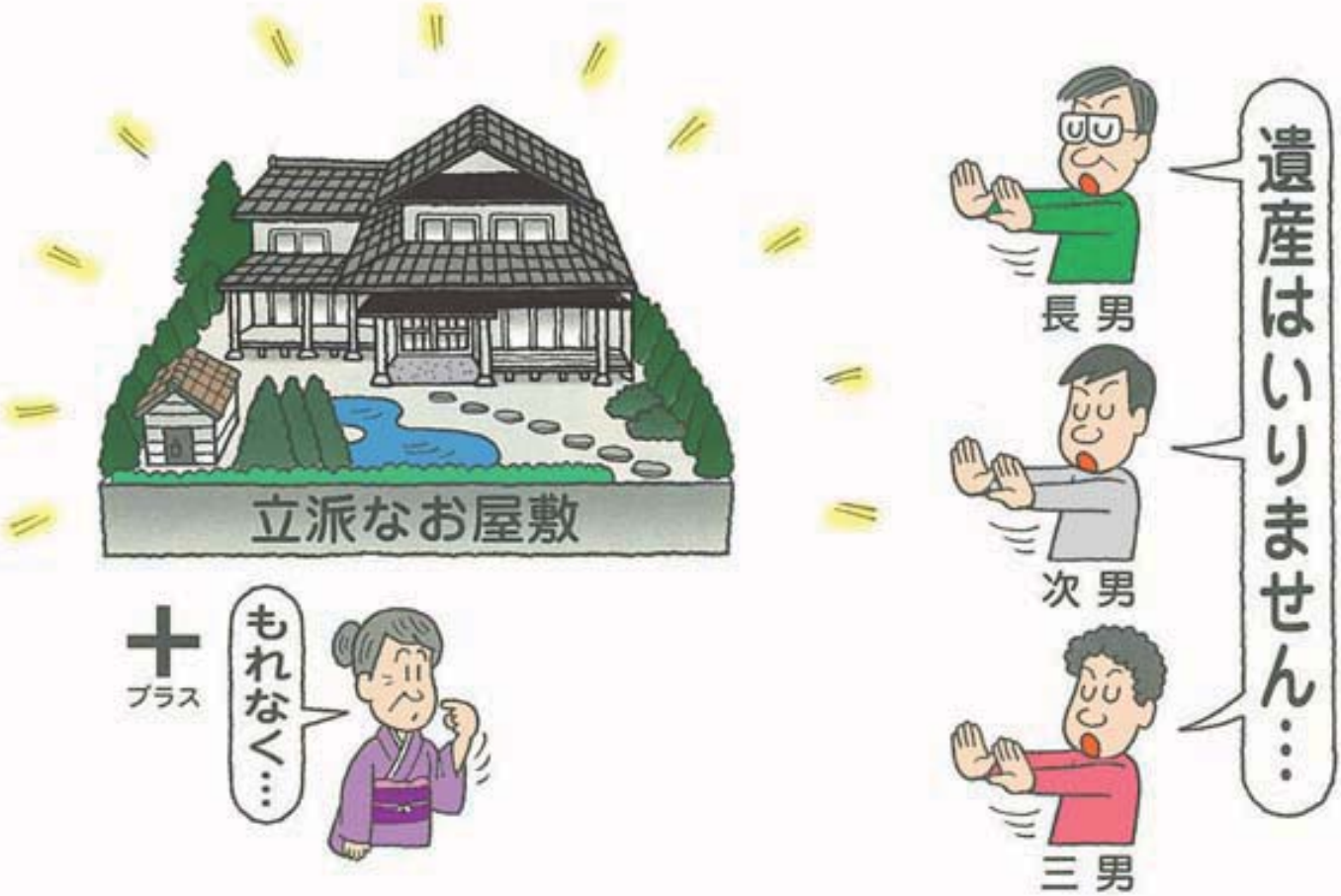
誰もいらない立派なお屋敷



さる高級住宅街のお屋敷でご当主が亡くなり、遺産分割会議が行なわれました。最大のテーマは、売却すれば数億円になるお屋敷を、誰が相続するかということでした。普通、こうした場合、われ先に「欲しい」と主張するものですが、集まった子供たちは誰一人欲しいとは言いませんでした。全員がすでに結婚して独立し、マイホームを持っているからいらないというのが表向きの理由ですが、実はお屋敷を相続した場合は「漏れなくオフクロさまが付いてくる」という条件があったのです。つまり、「気難しいお母さまの面倒を見るくらいなら、いくら立派でもお屋敷なんていらない」と、背後で奥さんたちが猛反対をしたわけです。

結局、末の息子が押し付けられた形で相続したのですが、間もなく「オフクロさま」は寝たきりになり、数年後に亡くなられました。「家を売って相続税を払った後の残金と、母の介護にかかったお金がほぼ同じ。いかにも母らしいツジツマの合わせ方というか…」と末っ子氏は苦笑しておられました。